

河村 建夫 選挙対策委員長

対談

佐々木知子 弁護士(元参議院議員)

日常生活で感じる「今」や、国会での活動を携帯メール「親指の独り言」として発信している河村建夫選挙対策委員長。
今回は、本誌「法律相談」でおなじみの弁護士で元参議院議員の佐々木知子さんと2人で、「りぶる」からの発信です。

政務次官と検事から 国会議員として 共に政治活動を

—はじめに、お2人の親交のきつかけは。

河村 私が法務政務次官「平成8年(1996)1月〜11月」だった時、視察で「国連アジア極東犯罪防止研修所」を訪れました。そこで当時、検事をされていた佐々木先生とお会いしたのが初めてです。

佐々木 今から17年ほど前ですね。私はそこで教官をしてい

て、河村先生といろいろお話をさせていただきました。

初めてお会いした時の印象は、「政治家らしくない方だな」と(笑)。すごくまじめなのに、とても楽しい方で、それは長いお付き合いの中でも変わらない先生のお人柄です。

河村 その後、平成10年(1998)の参議院選挙で、佐々木先生を自民党の公認候補者として擁立しました。そして見事に当選され、検事から転身された初めての国会議員が誕生したわけです。

国会議員としては、同じ政策グループの一員として会合でお会いしたり、懇談したり。海外もよく一緒にしましたね。流暢な英語は独学だそうです。視察で海外を訪れた際には、よく通訳やアテンドをしていただきました。

佐々木 検事から国会議員への転身は迷った末の決断でしたが、私の参議院議員の任期中に選挙制度が変わって、比例代表制の定数削減や非拘束名簿式への変更などがありました。党からは「2期目も」とのお声掛けもありましたが、参議院議員の任期が切れる1年前に次の選挙には立候補しないと決め、弁護士を始めました。

河村 政治活動も共にし、こうして長いお付き合いとなつていくわけですが、佐々木先生は本当に努力家で、今も弁護士として、また他にも多彩な活動を続けていらつしゃいます。私の娘が司法試験に合格した時も進路をご相談しました。娘は、先生の影響で検事になりたいと

今、その夢がかなって頑張っています。

大切なのは 「基本的な人間づくり」 思い切った教育再生を

佐々木 私は今、帝京大学でも教えているのですが、教育の現場では、理念や法律の枠組みだけでは解決できない問題がたくさんあります。

河村 若い人たちがもつと視野を広げて世界へ出ていけるようにしないとダメですね。それに向けたグローバルな人材づくりなど、思い切った教育再生が必要だと考えています。

そのためには、家庭教育における道徳教育などを含めた基本的な人間づくりが大切ではないでしょうか。

佐々木 最近、いじめや体罰の問題がクローズアップされていますが、私は「指導」の名のもとであっても暴力や暴言は決して許されないと考えています。一個人や一学校、一競技という問題ではなく、社会全体で暴



力はNO」と言うべきです。

河村 スポーツの世界では、練習は厳しいものと思われていますが、根性論ではなく、これからの時代や人間に対応する効果的な指導法やトレーニング法が求められますね。

佐々木 大学では女子柔道の部長も務めています。日本の

お家芸であっても、最近では全国大会ですら観客が少なくて寂しいです。

柔道の競技人口が多いフランスでは、いつもたくさん観客で盛り上がっていますし、どこかの町にも柔道場があり、体や精神を鍛えています。「一般教養を豊かにすること」、それがス



す。次の参議院選挙からはインターネットを使った選挙運動が解禁される予定ですし、これらへの対応は重要な選挙対策の一つだと認識しています。

**参議院選挙勝利で
ねじれを解消
真の「日本を、取り戻す。」**

—選挙対策委員長として、夏の参議院選挙にはどのように臨

まれますか。

河村 幹事長・総務会長・政務調査会長に、選挙対策委員長を加えて臨む選挙です。この参議院選挙には、安倍晋三総理・総裁が衆議院議員総選挙で国民に約束した「日本を、取り戻す。」という強い思い入れがあります。

佐々木 自民党には一人でも多くの議席を獲得されることを期待しています。参議院で過半

ポーツの目的なんです。

河村 体を動かした方が、脳の働きもよくなります。どちらも必要なことなんですよね。

佐々木 昨年、iPS細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授は高校時代に柔道、大学時代はラグビーをなさっていたそうです。文武両道で学問に励み、体も鍛えてきたからこそ、試練や逆境にめげず、ユーモア精神にあふれ、他人にも寛容な素晴らしい人格がつくられたのだと思います。

**「今を、「政治」を発信中！
「親指の独り言」**

佐々木 河村先生と私は、「メル友」仲間でもあります。私がメールをすると、先生はいつも丁寧なご返信をくださいますね。

河村 佐々木先生からのメールが、ズバリ核心をついていて、鋭いからです。それにきちんと答えようとすると、長くなるんです。

数を確保して、法案が滞りなく通ることが国のためになります。

河村 ここで勝つてねじれを解消して政権を安定させれば、まさに今、実行しようとしている「日本を、取り戻す。」政策が進められるのです。

私は3年半近く、どうやって全国の地方選挙で勝つか、その政策や戦略を練り上げてきました。地方で勝つことによって、党の組織がより強固になってきたのを実感しています。

佐々木 先日、石破幹事長が演説で「自民党のために言っているのではありません、国のために言っています」とおっしゃっていました。これ聞いていて、とてもいい言葉だなと。国民が再び自民党を選んだのは、国や暮らしを良くしてもらいたいからだと思っています。

もちろん、いろんな方から届くメールにも、できるだけ丁寧にお答えするようにしています。

佐々木 河村先生はとてもまめな方で、「ミスター・ビーンズ（英語で「豆」）」というニックネームがあるくらいです（笑）。

先生のブログもいつも楽しく拝見しています。

河村 「親指の独り言」のことですね。携帯メールを親指で打つことから、そう名付けました。日々の出来事や政策を独り言のように綴っているのですが、政治活動における重要なコミュニケーションツールになっていきます。家内からはまだ発信力が足りないと言われていますが（笑）。

スマートフォンが登場したり、ホームページ、ブログ、フェイスブック、ツイッターなど、インターネットを使った情報発信ツールは実に多彩です。わが党では、安倍晋三総理・総裁がいちばん多く情報を発信していて、国民の関心も高まっています。

河村 民主党のマニフェストはいい加減で、政策も実行できずに国民を不安に陥れました。昨年末の衆議院議員総選挙は、自民党の勝利というより、民主党の混乱と野党の乱立の結果と言えられるかもしれません。

—参議院の議席定数は242議席ですが。

河村 自・公の任期継続が57議席なので、過半数を獲得するには、両党で65議席以上が必要なんです。これは相当高いハードルです。しかも選挙区制は、激戦になりやすい一人区が2つ増えて31になるので、しっかり引き締めて臨みたいと思います。

佐々木 私も参議院議員時代には法務委員会で、多くの法案を議論してきました。国会は法案を審議する場ですから、候補者には自分の職務に責任を持つ人、常識があり、きちんと人の話が聞ける人を期待したいと思います。

河村 候補者は原則公募で擁立し、我々は地方で選考された人たちと面接し、当選の可能性



河村建夫 選挙対策委員長のオフィシャルサイト

<http://www.tspark.net/>



アクセスしてみませんか 「親指の独り言」
<http://tspark.no-blog.jp/oyayubi/>

フェイスブック
<http://www.facebook.com/takeo.kawmaura>

を見極めます。参議院議員にな
って何をやりたいか、志も重
要ですが、選挙での勝負の分か
れ目はその人が持つ個性や教養
だったりします。

佐々木先生のご指摘のように
優秀な人材を一人でも多く擁立
するには、次世代を担う若い世
代はもちろん、政治的センスや
経験ある人材も必要で、そのバ
ランスが大事です。

佐々木 自民党には国民の期
待に込める党であってほしいと
思います。決しておこつてはい
けませんね。国民はよく見てい
ますから。

河村 党大会には参議院選挙
に挑む候補者が出そろいます。
参議院選挙に勝って初めて、自
民党が広く国民に支持されたこ
とになります。まずは、候補者
一人ひとりが、しっかりとその
意識を持つことが不可欠です。
私もこれまでの経験を生かし
て、選挙対策委員長としてさら
に強い意志で議席奪還に取り組
んでいきます。

「三本の矢」で経済再生 山積みの課題に挑む

— 国民は自民党の政策につい
て、何を期待されていると思
いますか。

河村 まずは景気対策ではな
いでしょ。安倍政権が誕生
して株価が上がり、円安基調が
進んでいます。これには国民の
期待感がありますから、さらに
スピード感をもって応えてい
なければなりません。

安倍政権は、「アベノミクス」
による経済再生を推し進めてい
ます。その柱が、「大胆な金融
政策」、「機敏な財政出動」、「民
間投資を喚起する成長戦略」で
す。

佐々木 この三つの柱はどれ
も重要で、「三本の矢」と呼ば
れていますね。

河村 「三本の矢」の命名は、
安倍晋三総理・総裁や私の地
元である山口の長州藩毛利家の
故事にちなんでいます。元就に
は3人の息子(隆元・元春・隆
景)がいて、一本では脆い矢も

束になれば頑丈になると、3人
の結束を訴えかけているんです。

経済再生を実現していくには、
国民のみなさんとの強い結束が
不可欠です。そんな意味も「三
本の矢」に込められているんですよ。

佐々木 それこそ矢継ぎ早に
経済政策が打ち出され、着実に
日本経済の再生へと進みつつあ
りますね。

河村 経済再生を、いちばん
期待しているのは地方です。今、

地方の経済は非常に疲弊してい
ますから、わが国の喫緊の課題
として、経済政策と震災復興は
強くスピーディーに進めていか
なければいけません。

佐々木 国民が期待している
のは経済の立て直しですから、
富を生み出さないと所得が減つ

て社会保障の基盤も揺るぎか
ないですね。

河村 われわれはその社会保
障の基盤をもう一度再構築する
責任を担っています。社会保障
の充実・安定化と、そのための
安定財源確保・財政健全化を同
時に達成させなければなりません。
これを指す、「社会保障
と税の一体改革」も三党合意を

踏まえて進めていかねばなり
ません。

まだまだ発信したい情報はた
くさんありますが、今日はこう
して佐々木先生と2人で、読者
の皆さんに向けて、わが党の政
策や夏の参議院選挙について発
信できました。「親指の独り言」
も国民の皆さんの目線に立つて
発信し続けていきたいですね。

